

## 今後の中学校給食について

### 1. 全員喫食について

<方向性（案）>

- ・家庭弁当の持参を可としている現行の選択制を改め、栄養バランスの良い給食を生徒全員に提供できる「全員喫食制」への移行が望ましい

	主なメリット	主なデメリット
全員喫食制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員に統一的な食育指導が可能</li> <li>・栄養バランスの良い給食を生徒全員に提供できる</li> <li>・家庭の負担軽減につながる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭弁当等を希望するニーズに応えることができない</li> <li>・アレルギー対応や嗜好など個々への対応に限界がある</li> </ul>
[現行] 選択制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭弁当等を希望するニーズに応えることができる</li> <li>・アレルギー対応や嗜好など個々への対応が可能である</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員に統一的な食育指導を行うのは困難</li> <li>・給食を利用しない場合、家庭弁当を準備する家庭の負担が発生する</li> </ul>

### 2. 提供方法について

<方向性（案）>

- ・生徒や保護者のニーズを踏まえ、現行のランチボックス方式を改め、温かい給食の提供や量の調整ができる方式への移行が望ましい

	主なメリット	主なデメリット
①自校調理方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かい給食が提供できる</li> <li>・量の調整ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチボックスで提供する方法と比べて、準備時間が必要</li> </ul>
②親子調理方式		
③給食センター方式		
④民間デリバリー方式（食缶）		
[現行] 民間デリバリー方式（ランチボックス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食缶で提供する方法と比べて準備が容易</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生管理基準上、おかずを冷却する必要がある</li> <li>・量の調整が難しい</li> </ul>

### 3. 実施方式について

- ・1、2の方向性を踏まえ、費用対効果や効率性などの観点から、最適な方式を検討していく
- ・一つの方式に拘らず、学校施設の状況や地域特性なども踏まえたうえで、複数の方式を組み合わせることも含めて柔軟に検討していく